



森とアースへの
eco
プロジェクト

Certificate

Hokkaido Environment Foundation confirms that the recipient did offset the following amount of carbon emission.

公益財団法人北海道環境財団は、提供先が下記の内容に基づき、温室効果ガス排出量の相殺（オフセット）を実施し、地球全体の温室効果ガス排出量の削減に貢献したことを、本証明書を以って証明いたします。

提 供 先
Recipient

株式会社フチガミ

オフセット量
Quantity of offset

50 トン - CO₂

再生重油の製造工程から排出される CO₂ をカーボン・オフセット
(令和5年度分)

本証明書のベースとなる排出権 Carbon credits, the base of this Certificate

クレジット(排出権)の内容 J-VER、J-クレジット
Type of the credit

識別番号 Serial numbers

JP-200-000-000-243-172 ～ JP-200-000-000-243-176

JCL-400-000-008-118-828 ～ JCL-400-000-008-118-872

クレジット集約者・証明書発行者

公益財団法人北海道環境財団
理 事 長 小 林 三 樹





森とアースへの
eco
プロジェクト

森とアースへのECO-プロジェクト
令和4年度 実施報告書



株式会社フチガミ

全国オイルリサイクル協同組合
森とアースへのECO-プロジェクト推進チーム

廃油リサイクルから森づくりへ

弊社は、1975年より、廃油リサイクル事業から創業し、今年で47年を迎えました。現在では廃油リサイクル事業を含めた産業廃棄物全般のリサイクル事業に取り組んでおります。

世界は気候変動による様々な問題に直面し、問題解決のため温室効果ガス削減に向けた動きが加速しています。その一環として2050年までにカーボンニュートラルを実現するための企業活動が求められています。弊社も「環境貢献への取り組みを通じてお客様の繁栄と地域社会の発展に貢献する」を経営理念に掲げ、産業廃棄物のリサイクル事業活動を通して持続可能な社会実現に貢献できるよう活動しております。この度、全国オイルリサイクル協同組合の「森とアースへのECO-プロジェクト」に参加し、森林保全活動の支援を通じたCO2削減や生物多様性の保全活動にも努めてまいります。

令和4年度は、先進的な環境・森林保全に取り組む2市4町（岩手県葛巻町、栃木県日光市、静岡県川根本町、三重県大台町、京都府長岡京市、福岡県篠栗町）において、植林や間伐等の森づくりを通じた温室効果ガス削減や生物多様性保全の取り組みを支援いたしました。また、脱炭素社会実現に向けた国内外の動きを見据え、森づくり等を通して生じる温室効果ガス吸収量を活用したカーボン・オフセットを実施して、弊社事業活動の脱炭素化にも努めました。

この豊かな環境を次世代に繋いでいくためには、木を植えることはもちろんのこと、森林の管理や活用、カーボン・オフセットの実施など様々な視点から継続的な脱炭素に取り組まなければなりません。弊社は、これまでも廃油のリサイクル等を通して循環型社会構築への貢献に努めてまいりましたが、森林に代表される自然資源・生態系サービスの恵みを受けて社会活動を担う一員として、「廃油リサイクルから森づくり」を掲げ、さらなる社会貢献に努めてまいります。

令和5年3月吉日

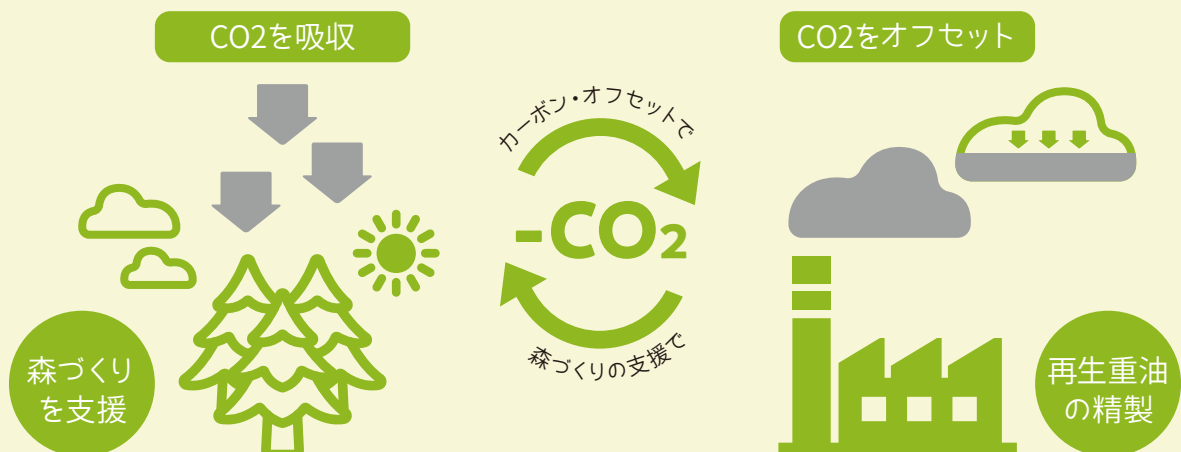
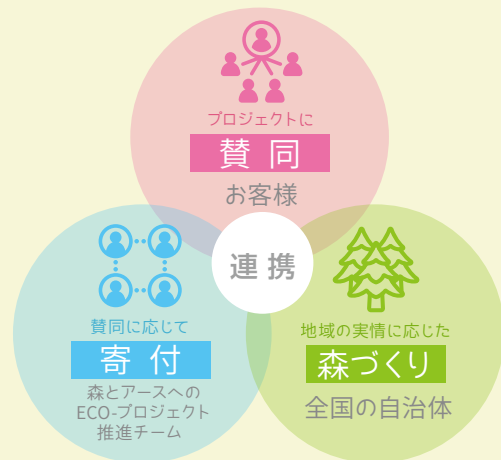
株式会社フチガミ
代表取締役 渕上 明彦

森とアースへのECO-プロジェクト概要

廃油の適正処理とリサイクル事業に取り組む企業で構成する「全国オイルリサイクル協同組合 森とアースへのECO-プロジェクト推進チーム」は、日本各地の森づくりと地球温暖化防止に資する社会貢献事業として、平成28年から「森とアースへのECO-プロジェクト」を展開しています。

本プロジェクトを「お客様とともに取り組む社会貢献活動」として位置づけ、お客様のご賛同のもと、各社が廃油リサイクル事業の収益の一部を拠出し、脱炭素社会の実現に向けて先進的に取り組む全国各地の自治体と連携して森林保全活動を実施しました。また、森づくりの結果等から生じるCO₂吸収量を活用して廃油リサイクル事業等において排出されるCO₂のオフセットにも取り組みました。

2050年に向けた脱炭素社会の実現を目指して、廃油リサイクル等を通じた循環型社会構築への貢献に加えて、本プロジェクトを通じた森林保全活動の支援や、カーボン・オフセットへの取り組みにより、脱炭素社会構築への貢献に努めてまいります。



日本の森づくりと脱炭素社会の構築に貢献



くず まき まち

岩手県葛巻町

北緯40度、岩手県の北東部に位置する葛巻町は、面積の約85%を緑豊かな森林が占め、標高1,000m級の山々に囲まれた高原風土が漂う山村の町です。「ミルクとワインとクリーンエネルギーのまち」をキャッチフレーズに掲げ、町が持つ多面的な資源と機能を最大限に活かして、この山村でしかできないことに果敢に挑戦しています。



その基幹となっているのは、酪農と林業であり、酪農については明治25年にホルスタイン種を導入して以来130年の歴史があり、現在は日量90tの生乳を生産する東北一の酪農郷として発展しています。一方、林業については、町の広大な山林を活かすため、「伐採したら植える」「子や子孫のために手入れを怠るな」の精神のもと、地球温暖化防止などの環境問題の観点からも、造林や間伐等を積極的に推進し、森林そのものの価値を高める努力を行ってきました。また、他に先駆けて風力や太陽光、木質・畜ふんバイオマスなどの再生可能エネルギーを積極的に導入し、その発電量は一般家庭の消費電力の約5万世帯分の総出力で、電力自給率360%を達成しています。緑豊かな高原にそびえ立つ34基の風車は、町のシンボルとなっています。

葛巻町では、食料・環境・エネルギーなどの地球規模の課題に対しても貢献する「全国の山村のモデル」となるまちづくりを進め、町の次代を担う子どもたちが「夢」と「誇り」を持ち、この町に住んでいて良かったと思えるようなまちづくりを推進しています。

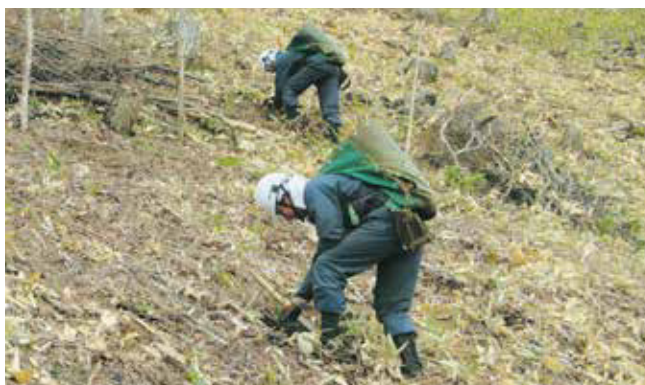
岩手県葛巻町の森づくり



葛巻町の森林面積は36,791haで、このうち民有林が36,034ha。民有林における人工林率は41.5%で、主樹種であるカラマツの多くが伐期を迎えています。昭和20年代まで盛んであった木炭製造は、化石燃料エネルギー転換により縮小し、その後、木材価格の低迷や山村の過疎化により、林業を取り巻く情勢は厳しい状況にあります。

このような中、再造林に対する助成、寄付金条例を制定しての間伐促進、植樹祭や一薪・牧・巻ートリプルまきフェスタの開催など、町独自の取り組みを展開し、薪ストーブ購入費や町産材利用による住宅等建設への補助、「岩手くずまき高原カラマツ認証制度」によるカラマツのブランド化など、木材の利用拡大にも積極的に取り組んでいます。

森とアースへのECOプロジェクト 施業実績



【施業内容】 再造林

【場 所】 葛巻町内6ヵ所

【面 積】 約8ha

【施業時期】 令和4年4月上旬～6月下旬



岩手県葛巻町長 鈴木 重男

葛巻町長からのメッセージ

このたびは、葛巻町の森林づくりに対し、ご支援をいただきましたことに厚くお礼申し上げます。

当町では令和4年11月、橋長51m、道路幅員9mのカラマツ集成材を使用した上屋が特徴の「大橋」が完成しました。木製上屋は「林業の町くずまき」の新たなシンボルとして、地場産材の利用促進や新たな木材利用の提案などさらなる林業振興の広告塔として、地域経済の活性化に大きくつながるものと期待しています。

近年、脱炭素化社会の構築に向けた動きが活発化し、森林の持つ多面的な機能が注目・見直されています。これを好機として捉え、今後も林業の町として魅力ある森林づくりを推進してまいります。



栃 木 県 日 光 市

日光市は栃木県の北西部に位置し、北は福島県、西は群馬県に接しています。総面積は1,449.83km²で、県土の約4分の1を占める日本で3番目に大きい市です。

当市の歴史は古く、8世紀末に勝道上人による開山以後、山岳信仰の聖地とされてきました。17世紀に徳川家康公の霊廟として建立された日光東照宮は、1999年に日光二荒山神社、輪王寺と共に世界遺産「日光の社寺」として登録されております。周辺にはリンドバークやヘレン・ケラーなど内外著名人を魅了した和洋近代建築ホテルや皇室御用邸跡が鎮座しています。また、ラムサール条約湿地に登録された「奥日光の湿原」エリアには4か国の旧大使館別荘が築かれ、国際社交場として海外要人を迎えました。四百年に渡り人々の往来を見守る世界一長い「日光杉並木街道」や、豊富な湧出量と異なる泉質が体と心を癒す「鬼怒川、川治、湯西川、奥鬼怒の温泉郷」、日本の近代化の象徴として大きな功績を残した「足尾銅山」など、国際観光都市と認知される一方で森林面積は125千ha、林野率は86%に達する森林資源の豊富な都市でもあります。

栃木県最大の日光林業地は、古くから人工造林が行われてきました。江戸時代に日光東照宮の建設に多くの木材が使われたことや、消費地の江戸に河川を使って運び、建築用材として使われたことから林業が盛んになったといわれています。日光市のスギやヒノキは通直な材が多く、建築用材をはじめ、家具や建具など様々な用途に使用されています。



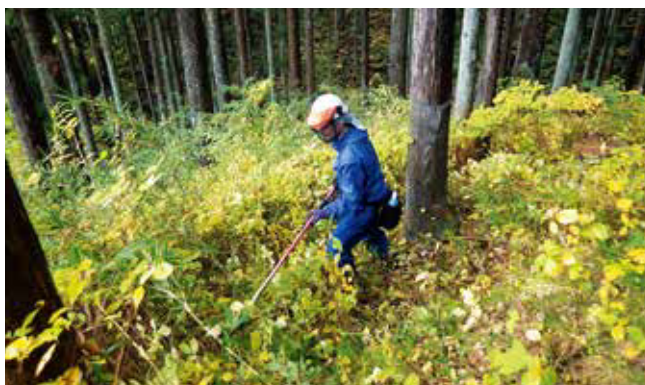
栃木県日光市の森づくり



日光市の民有林人工林面積は約24千haで、計画的に経営管理される森林は約6割です。森林所有者への意向調査では「境界」や「施業履歴」を把握する回答は少なく、「市への管理委託」を希望するものが多数を占めており、民有林の整備拡大と、林業担い手の育成・確保など実施体制の強化に取り組んでいます。

資源の活用では市産出木材を「日光の木」として商標を登録し、官民協働でブランド化を図ってきました。首都圏を中心に展示会への出展や自治体間連携の構築に注力し、都内の学校建築資材やホテル、レストランの内装材を受注するなど、取り組みが成果として表れてきたところです。

森とアースへのECOプロジェクト 施業実績



- 【施業内容】 林内の除伐、刈払
- 【場 所】 日光市平ヶ崎市有林ほか
- 【面 積】 約23ha
- 【施業時期】 令和4年10月～11月



栃木県日光市長 粉川 昭一

日光市長からのメッセージ

この度は「森とアースへのECOプロジェクト」により、日光市の森林づくりにご支援いただき厚くお礼申し上げます。

当市は豊かな水資源や森林、多様な生態系、日光国立公園やラムサール条約湿地など世界的に優れた自然景観や自然環境を守るため、令和3年12月に「2050年ゼロカーボンシティ」を宣言しました。森林は先人が守り、育んだ、生命の営みに欠かせない大切な資源です。

この恩恵を市域を超えて皆様に享受いただけるよう森づくりに取り組んでまいりますので、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。



かわねほんちょう 静岡県川根本町

川根本町は、平成17年9月に中川根町と本川根町が合併して誕生した町で、静岡県の中央部、大井川中流域に位置し、面積496.72km²のうち、約94%を森林が占めています。本州唯一の原生自然環境保全地域を有するほか、南アルプス国立公園、奥大井県立自然公園を有しており、山岳景観、渓谷美、原生林等、優れた自然環境が古来より継承されています。平成26年には、町域全体が南アルプスユネスコエコパークに登録され、平成27年には日本で最も美しい村連合に加盟するなど、自然と文化の共生による持続可能な発展を目指す取組みを進めています。



また、当町は、日本有数の銘茶として全国に知られている「川根茶」の中心的産地であるほか、大井川鐵道のSL、機関車トーマス号の運行、日本唯一のアプト式鉄道、寸又峡、接岨峡といった温泉地など県内外から訪れる多くの人を魅了しています。

こうした豊かな自然環境や森林資源を活かし、古くから林業が盛んな地域でありました。近年は、長期的な木材需要の低迷、担い手不足などにより厳しい状況にありますが、森林の持つ公益的機能が十分に発揮されるよう、森林整備に努めるとともに、大井川産材の安定供給体制の構築、木材需要の創出に取り組む続け、森林を守り育てていく「水と森の番人」としての責務を果たしてまいります。

静岡県川根本町の森づくり



本町の人工林の多くが伐期を迎え、資源として成熟していることから、計画的な伐採と適正な管理を推進するため、間伐、間伐材の搬出、作業道の開設、防護柵の設置などに補助を行っています。

また、町と自伐林家を主体にFSC森林認証を取得し、「環境・社会・経済」に配慮した森林管理に取り組み、FSC認証材の需要拡大を目指しています。令和3年度からは、森林環境譲与税を財源に森林経営管理制度に基づく事業にも着手し、令和4年度中に約45haの間伐を行うなど、森林の持つ多面的機能の増進を進めています。

森とアースへのECOプロジェクト 施業実績



- 【施業内容】 間伐
- 【場 所】 川根本町水川地内(町有林12林班)
- 【面 積】 約3ha
- 【施業時期】 令和4年7月～9月



静岡県川根本町長 菰田 靖邦

川根本町長からのメッセージ

川根本町の森林整備に対し、「森とアースへのECOプロジェクト」によりまずご支援をいただき、誠にありがとうございます。

昨年の台風15号では、土砂災害、風倒木被害等の山地災害が多発し、甚大な被害を受けたことから、森林整備の重要性を強く感じました。大井川の水を守る「森と水の番人」として誇りと責任をもって、自然環境の保全、適正な森林整備の促進を行い、川根本町の豊かな自然と美しい景観を継承するとともに災害に強いまちづくりに取り組んでまいります。今後ともよろしくお願い致します。



おお だい ちょう 三重県大台町

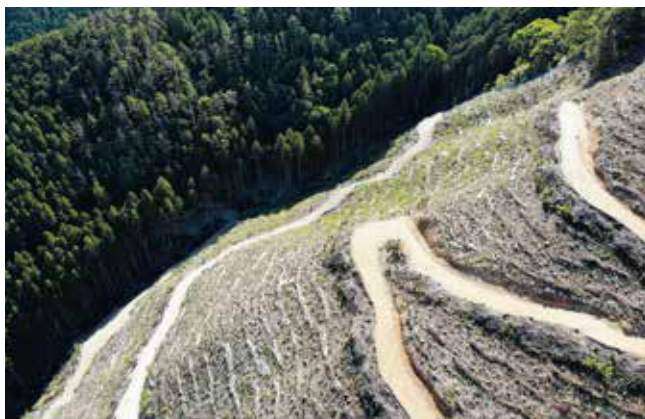
大台町は、三重県の中南勢地域の南西部に位置し、町内全域が大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパークに登録された自然豊かな町です。面積は362.86㎢と三重県内の町では最大で、その内93%を森林が占め、大台ヶ原を源とする一級河川「宮川」が町の中央を東流し、宮川の源流部は吉野熊野国立公園、上中流域が奥伊勢宮川峡県立自然公園に指定されています。年間降水量は3,687mm(過去10年間平均)で、上流域では年間5,000mmに達することもあり、日本でも有数の多雨地帯です。



宮川の源流域は、鎌倉中期以降は伊勢神宮の式年遷宮用木材を切り出す主要な「御杣山(みそまやま)」であり、美濃、木曽地域と並ぶ特異な存在として知られ、当時、切り出した木材は宮川を使って流送し、伊勢へ運んでいました。この御杣山としての御神材の搬出が、この地域の組織的な森林開発の発端と言われています。その後、1955～1965年頃(昭和30年代)の戦後復興期を全盛に、木材の生産地かつ流通の拠点として森林木材産業は繁栄してきました。

人口減少が国全体の問題として取り上げられる中、本町では、1955(昭和30)年をピークに人口減少が続いています。このような問題に対して、本町が目指すべき将来像や取り組むべき課題を大台町総合計画に定めています。大台町を誇りに思い、大台町で働き、大台町でこどもを育てたいと思う人々が、いつまでも住み続けたいと思える魅力ある町づくりを進めています。

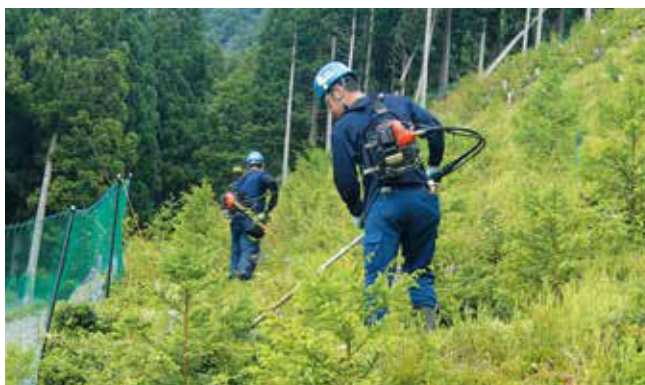
三重県大台町の森づくり



本町の森林のうち、植栽された人工林は約16,500ha(人工林率59%)であり、利用期を迎えた50年生以上の森林が55%以上を占めています。長期的な木材価格の低迷が続く林業業界において、本町の基幹産業としての林業を発展させていくためには森林作業道の開設や森林境界明確化などの基盤整備を継続的に推進して行く必要があると考えています。

また、防災減災対策を目的として、従来の単一的にスギ、ヒノキを植栽する林業から、その森林の立地条件にあった樹種を植栽することを進めており、適地適木理論に基づいて事業を行っています。木材の売上だけではなく森林から採取できる新たな中間林産物としてアロマ製品やきのこ栽培など新たな収入源の確保についても模索しています。

森とアースへのECO-プロジェクト 施業実績



【施業内容】 下刈り(2回刈りを実施)

【場 所】 大台町滝谷、藺地区

【面 積】 約11ha

【施業時期】 令和4年5月～11月



三重県大台町長 大森 正信

大台町長からのメッセージ

このたびは大台町の森づくりに対して格別のご支援をいただきまして厚く御礼申し上げます。

本町は町内全域がユネスコエコパークに指定されるなど豊かな自然を有しております。林業業界は木材価格の低迷から衰退しておりますが、本町の基幹産業である林業を支えるためには森林の集約化による施業コストの削減や森林作業道開設等の基盤整備が急務であると感じております。また森林は木材の生産といった役割の他、水源の涵養、地球温暖化防止等の公益的機能を有していることから町民の生活を守るためには適正な森林管理を推進していく必要もあります。次世代に引きづく森づくりの実現にむけて今後も取り組んでまいります。



なが おか きょう し

京都府長岡京市

京都府南西部に位置する長岡京市は、京都・大阪の主要駅の間にある、面積約19.17km²のコンパクトなまちです。鉄道や高速道路、幹線道路等による交通アクセスに恵まれる一方、市域の約4割にあたる786haを森林面積が占め、市街地近くにも田園風景がひろがるなど、豊かな自然環境にも恵まれています。かつては約1,500年前に弟国宮、約1,200年前に長岡京の都が置かれ、中世以降も明智光秀の最後の戦い「山崎・勝龍寺城合戦」で明智軍が籠城した勝龍寺城が存在した等、様々な史実の舞台にもなりました。



地域の森林資源については、大きく人工林、天然林、竹林中心のエリアに分かれています。対象地のほぼ全てが民有林で、小規模森林所有者が大半のため、所有者による通常の管理のみでは人工林の維持や天然林の適正更新が困難です。また、長岡京市と周辺地域は全国有数のたけのこ産地として知られていますが、高齢化等で廃業する農家も多く、竹林の荒廃や拡大も問題になっていました。

こうした状況を打開すべく、平成17年6月に産官学民連携の「西山森林整備推進協議会」を設立し、参画者の協議を経て「西山森林整備構想」を策定しました。中長期計画に沿って一体的な森林整備を実施する等、森林経営管理法施行に先駆けて行政主体の取り組みを進めています。また、令和4年4月には、地球温暖化対策を推進し、豊かな自然環境を将来世代に引き継いでいくため、「2050 年ゼロカーボンシティ」宣言を行いました。

京都府長岡京市の森づくり



前述の「西山森林整備推進協議会」での議論を基に整備方針を決定し、人工林、天然林、拡大竹林をバランスよく整備しています。人工林については、林道や作業道の整備がある程度進んでいるため、公共施設等で活用するための間伐材搬出や一定周期での保育間伐を実施し、天然林では落葉広葉樹林を中心とした生物多様性、水源涵養機能の高い森林に誘導するための施業を行っています。竹林については、森林との境界付近にある拡大竹をライン上に伐採するとともに、点在する放置竹林を皆伐し、樹種転換を図っています。

森とアースへのECOプロジェクト 施業実績



- 【施業内容】 拡大竹林維持管理
- 【場 所】 長岡京市西山一帯
- 【面 積】 約9ha
- 【施業時期】 令和4年6月～9月



京都府長岡京市長 中小路 健吾

長岡京市長からのメッセージ

この度は、「森とアースへのECOプロジェクト」により、長岡京市の森林整備に対して格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

本市では、平成17年6月に森林所有者・企業・ボランティア団体・市民・行政・学識経験者でつくる「西山森林整備推進協議会」が発足し、同協議会が策定した「西山森林整備構想」を基に持続的な森林整備・保全活動に取り組んでまいりました。

今後も、森林の持つ多面的機能を将来世代にわたって継承するとともに、脱炭素社会の実現や間伐材利用による森林資源の循環に貢献できるよう努めてまいります。



さ さ ぐ り ま ち

福岡県篠栗町

篠栗町は東経130度31分、北緯33度37分、福岡市内から東に12kmのところに位置します。九州の玄関口JR博多駅（福岡市）から電車で約15分のところに位置しながら、町の総面積38.93km²のうち7割が森林を占める緑豊かな町です。鉾立山・八木山・若杉山の峰々が町を囲むようにそびえたち、中央には多々良川が東西に流れ、その周囲に平地が開けています。交通アクセスが良好で、福岡市のベッドタウンとなっています。



また、篠栗町は弘法大師ゆかりの地として知られ、小豆島四国、知多四国と並び、日本三大新四国霊場として有名な霊場です。広大な景勝地の中に八十八ヶ所の札所があり、心の安らぎを求めて全国から多数の人々が参拝されます。さらに森の巨人たち100選に選ばれた「トウダの二又」や「大和の大杉」など巨樹・巨木が点在する大和の森を有するなど、流れる時間を見つめてきた神秘性を各地で感じることができます。この歴史や遍路道、豊かな森林に新しい付加価値を付けた新たな事業を実施することを目的に、2009年に森林セラピー基地の認定を受けました。基地認定を受けて以降、心と身体の健康づくりを図るため、森の案内人による森林セラピー体験ツアーを実施してきました。

令和3年9月には、今日まで共存してきた篠栗町の豊かな自然を守り、後世に残していくため、町民や事業所とともに、二酸化炭素実質排出量の削減に取り組む方針として、「ゼロカーボンシティささぐり」を宣言しました。

福岡県篠栗町の森づくり



篠栗町の主要産業である林業において、町の北に位置する萩尾地区が中心的役割を担っていますが、従来は当該地域には狭小な林業作業道しか存在せず、豊富な森林資源を十分に利活用できていませんでした。地域再生計画に基づき、町道と林道の一体的な整備を進め、令和元年度からは国の地方創生事業を活用し、現在では開設工事の90%以上が完了しているところです。今後は新規林道を活用し、林業の振興と森林整備を促進するとともに、観光においては、地域に点在する豊富な観光資源へのアクセス改善により、観光交流人口の増加を通じた地域の活性化を図ります。



福岡県篠栗町長 三浦 正

篠栗町長からのメッセージ

この度は、「森とアースへのECOプロジェクト」により、篠栗町の森林施策に対しご支援をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

当町では、町の財産である森林を守り育てるため、林道の整備、間伐や作業道の開設を推進し、後世に亘り持続可能な「もりづくり」を進めております。今後とも、この豊かな自然をまちづくりに最大限利活用しながら、『ゼロカーボンシティささぐり』として、地球環境保全に向けた低炭素社会の実現に取り組んでまいります。

森とアースへのECOプロジェクト 施業実績



- 【施業内容】 主伐
- 【場 所】 篠栗町大字萩尾
- 【面 積】 約2ha
- 【施業時期】 令和4年10月～11月

株式会社フチガミ

所在地	福岡県久留米市津福本町2300番地10
TEL	0942-38-5283
FAX	0942-38-5281
URL	https://fuchigami.co.jp/

令和4年度 全国オイルリサイクル協同組合 森とアースへのECO-プロジェクト推進チーム 構成員

環境開発工業株式会社、日重環境株式会社、木幡興業株式会社
株式会社東亜オイル興業所、株式会社和光サービス、株式会社朝田商会
株式会社太陽油化、株式会社パンオイルサービス、岐阜鉱油株式会社
天星製油株式会社、岩谷化学工業株式会社、株式会社サンエム、山陰興業株式会社
株式会社フチガミ、有限会社森商会、全国オイルリサイクル協同組合

本プロジェクトの推進を通して、
持続可能な開発目標(SDGs)への貢献にも寄与しています。



森とアースへのECOプロジェクト事務局

公益財団法人北海道環境財団
北海道札幌市中央区北4条西4丁目1番地 伊藤・加藤ビル4階
TEL:011-218-7811 FAX:011-218-7812

プロジェクトHP



<https://www.heco-spc.or.jp/mori-earth/>